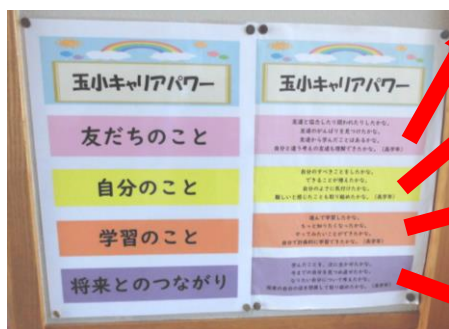


キャリア教育 第1弾

「今年度はキャリア教育を進めます！」と4月に先生たちには話をしました。みなさんにもお話しします。「キャリア教育」とは「みなさんが将来、社会に出たときに必要になる力をつけるための教育」です。岡山県でも2020年からキャリア教育のひとつとして【キャリアパスポート】の取り組みが始まり、2年生以上の人は書いたことがあると思います。

玉小キャリアパワー



5年生の教室掲示より

- | | |
|---------------------|----------------------------|
| ○友達と協力したり関わったりしたかな。 | ○友達のがんばりを見つけたかな。 |
| ○友達から学んだことはあるかな。 | ○自分と違う考えの友達も理解できたかな。(高学年) |
| ○自分のすべきことをしたかな。 | ○できることは増えたかな。 |
| ○自分のよさに気付けたかな | ○難しいと感じたことも取り組めたかな。(高学年) |
| ○進んで学習したかな。 | ○もっと知りたくなったかな。 |
| ○やってみたくことができたかな。 | ○自分で計画的に学習できたかな。(高学年) |
| ○学んだことを次に生かしたかな。 | ○今までの自分を見つめ直せたかな。 |
| ○なりたい自分について考えたかな。 | ○将来の自分の姿を想像して取り組めたかな。(高学年) |

【玉小キャリアパワー】に書いているような、【周りの人と協力できる】【自分のやるべきことができる】、【計画を立てられる】【夢や目標をもって、かなえるためにがんばれる】…こんな力がついたら、将来、仕事も生活も何かうまくできるように感じませんか？これらの力を学校のいろいろな活動でつけていくのが「キャリア教育」です。身近な例で言えば、授業や学校行事はもちろん、日直や給食・清掃当番などの取り組みも「キャリア教育」につながっています。

玉小学校には各教室に【玉小キャリアパワー】が貼ってあって、【よいところみつけの宝の木】に【友だちのこと】【自分のこと】【学習のこと】【将来とのつながり】について、よかったことを貼るようになっていきます。いろいろな活動を通して、自分や友だちのよいところ、がんばったところを見つけましょう。

なんで勉強するの？

「なんで勉強するの？」なんて、考えたことがありますか？お家の方もお子さんから「なんで勉強しないといけないの？」と質問されたらどう答えますか？

キャリア教育の内容の中に「働くこと・勉強することの目的（なんで働くのか・なんで勉強するのか）を考える」というものがあります。「なんで勉強するの？」の答えはたくさんあり、人によって正解は違います。しかし自分なりの答え（○○だから勉強する）を具体的にみつけることができた人は、勉強への気持ちや取り組み方が変わってきます。ぜひみなさんも考えてみましょう。



みなさんが考えるためのヒントとして、以前に読んだ本の中にあった「なんで勉強するのか」の答えを学校日より第6号と第7号でいくつか紹介します。少し難しい文章ですが、自分の考えと合うものがあれば嬉しいです。保護者の皆様もご一読いただき、お子さんへのアドバイスをお願いします。

裾野を広げると、いろんな人になれる お笑い芸人も裾野が大切

宇治原史規さん（吉本興業所属）

僕は京都大学という、東大と同じくらい難しい大学を卒業したお笑い芸人として注目されました。勉強が得意なタレントとしてよくクイズ番組にも出させてもらっています。

お笑い芸人っていつもテレビでふざけたことばかり言っているように見えるでしょう。でも頭のいい芸人さんはたくさんいます。そういう人は大人になっても勉強している人達です。中には全然勉強してこなかったという芸人さんもいますが、彼らも「もっと学校の勉強をしておけば良かったなあ」と口々に言います。

お笑い芸人になるなら勉強なんて必要ないと思われるかもしれませんが、そのお笑い芸人ですら、大人になると、勉強の必要性を強く感じるようになるんです。

もし今キミが、すでに勉強嫌いになってしまっているのであれば、まずは好きなことから始めてみて欲しい。学校の勉強に限らず、スポーツでも音楽でもいい。実はこれも全て、広い意味での勉強なんです。

富士山をイメージしてみてください。富士山が他の山よりも高いのは、裾野が広いからです。それと同じで人間も子どもの頃に色々な事を学ぶと、裾野が広がります。裾野が広いと、将来富士山のようにカッコいい大人になれる。逆に子どもの頃に裾野を広げておかないと、富士山のようにはなりません。

人間の裾野を広げるために、学校の勉強は大事です。でも学校の勉強だけじゃ足りません。スポーツも、音楽も、遊びも、友人関係も、全部自分の裾野を広げることになります。

脳みその使い方を覚えるのも訓練が必要

裾野を広げるのが大事だというのは分かったけれど、「じゃあ台形の面積を求める計算を、実際に社会で使うのか？」と、新たな疑問が浮かぶかもしれません。

確かにそれらの知識そのものを使うことは、社会ではあまり多くはありません。でも、自分で商売をするにしても、会社に入って働くにしても、どうやったら儲かるか、どうやったらお客さんに喜んでもらえるかということを考えなければいけないと思います。そのためにはやっぱり論理的に情報を活用する能力が必要です。

学校の勉強で、難しい問題をたくさん解いておくと、いざ社会に出て、誰にも答えの分からない未知なる問題に出くわした時、どうやって考えて、どうやって答えに近づけばいいのかが見えてくるはず。公式や年号を覚えることが目的ではなく、それらの知識をどうやって組み合わせれば使えば正解に近づけるかを学ぶことが目的。要するに、脳みその使い方を訓練しているのです。

僕は高校時代、バスケットをやっていたから、バスケットに例えて説明しますね。バスケットをやる時は、まずストレッチして、ランニングで体を温めて、ボールを使わない簡単な練習をして、やっと数人でパス回しをやって、だんだんと複雑な練習をして、最後によく試合に臨むことができるようになります。例えばひざを曲げたまま足を動かさず、その場でドリブルを続ける練習があります。そんな状況は試合の中ではあり得ません。でもそうやって筋肉の基本的な動作を染みこませておかないと、試合でうまくドリブルができないのです。それと同じだと思います。

おおたとしまさ（2014）『続 子どもはなぜ勉強しなくちゃいけないの？』日経 Kid+.